

標準委員会 システム安全専門部会 統合的安全性向上分科会  
第 44 回統合的安全性向上分科会議事録

1. 日 時 2023 年 7 月 20 日 (木) 10:00～12:10

2. 場 所 WebEX による Web 会議

3. 出席者 (敬称略)

(出席委員) 村上主査 (東大), 松本副主査 (MRI リサーチアソシエツ), 倉本幹事 (NEL),  
鈴木委員 (原安進), 廣川 (日立 GE: 曾根田委員代理), 高橋委員 (MHI),  
竹内委員 (東芝 ESS), 高橋 (東電 HD: 田邊委員代理),  
松島 (日本原子力発電: 中川委員), 長嶋委員 (関電), 成宮委員 (原安進),  
野口委員 (横浜国立大), 山田委員 (関電) (13 名)

(常時参加者) 疇津 (九州電), 岩田・堀内・山下 (関電), 岩谷 (NRRC),  
浦野 (日本原子力発電), 大家・岸根 (NEL), 亀山・幅 (電源開発),  
坂口・東山 (北陸電), 飛田 (東北電: 真安代理), 関 (原電エソジ),  
武内 (四電), 遠山 (北海道電), 中野 (MHI), 山口 (東電 HD),  
山本 (日本原燃), 吉岡 (中国電) (20 名)

(傍聴者) 橋本 (東北電) (1 名)

4. 配布資料

S3SC44-1 第 43 回統合的安全性向上分科会議事録 (案)

S3SC44-2 人事について

S3SC44-3-1 “原子力発電所の安全性の向上のための定期的な評価に関する実施基準：  
202X” 改定原案に関する決議投票【STC23-02】の結果について

S3SC44-3-2 PSR<sup>+</sup>標準改定に関するシステム安全専門部会 決議投票にていただいたコ  
メントへの対応

S3SC44-3-3 PSR<sup>+</sup>標準改定案に対する原子力学会標準課チェックコメント (本文等への  
気づき事項【改訂新版】)

S3SC44-3-4 PSR<sup>+</sup>改定標準案[システム安全専門部会書面投票コメント反映版]

S3SC44-4 “原子力発電所の安全性向上のための定期的な評価に関する実施基準：  
202X” 標準改定に関する本報告について (案)

S3SC44-5 日本原子力学会「原子力発電所の継続的な安全性向上のためのリスク情報  
を活用した統合的意思決定に関する実施基準」の改定について (案)

S3SC44-6 統合的安全性向上分科会検討スケジュール

参考資料：

S3SC44-参考 1 統合的安全性向上分科会委員名簿

## 5. 議事内容

### (1) 出席者確認

倉本幹事より、議事に先立ち、開始時点で委員 15 名中 13 名が出席しており、分科会成立に必要な定足数を満足している旨が報告された。

### (2) 資料確認

議事次第に基づき、配布資料の確認を行った。

### (3) 前回議事録の確認 (S3SC44-1)

倉本幹事より、資料 S3SC44-1 を用いて、第 43 回分科会議事録(案)の確認を行い、確定議事録とすることが承認された。

### (4) 人事について (S3SC44-2)

倉本幹事より、資料 S3SC44-2 を用いて、以下に示すと通りの委員の退任及び選任、並びに常時参加者の解除と登録が報告され、委員の選任及び常時参加者登録につき異議なく承認された。

- ・委員の退任【報告事項】

  - 中川 賢 (日本原子力発電)

  - 曾根田 秀夫 (日立 GE ニュークリア・エナジー)

- ・委員の選任【承認事項】

  - 外池 幸太郎 (日本原子力研究開発機構)

  - 廣川 直機 (日立 GE ニュークリア・エナジー)

  - 松島 英之 (日本原子力発電)

- ・常時参加者の登録解除【報告事項】

  - 福田 和樹 (日本原子力発電)

  - 飯野 宏基 (北陸電力)

  - 伊藤 耕史 (北陸電力)

  - 田門 健治 (関西電力)

- ・常時参加者の登録【承認事項】

  - 浦野 渡璃 (日本原子力発電)

  - 坂口 英之 (北陸電力)

  - 高嶋 啓介 (北陸電力)

  - 東山 陽 (北陸電力)

  - 堀内 保 (関西電力)

**(5) PSR+標準改定 システム安全専門部会書面投票結果, 及びその対応 (S3SC44-3-1～S3SC44-3-4)**

倉本幹事より, 資料 S3SC44-3-1～S3SC44-3-4 を用いて PSR+標準改定のシステム安全専門部会書面投票結果, 及びその対応について説明を行い, 審議を実施した。

本日の分科会の審議を踏まえて標準案を一部修正したものを分科会でも確認を得た上で, システム安全専門部会への対応報告を行うようにすることとした。主な議論は, 以下のとおり。

<資料 S3SC44-3-2 コメント No.1, No.2, No.4>

C: 英語のオブソレッセンスの定義には時間の経過に伴い機能が劣る状態となる等, 評価が入っていると考える。一方で日本語の旧式化という言葉そのものには本来古くなるという意味しか無く, 機能が劣る状態となる等の評価が入っていないので, 言葉のニュアンスだけで旧式化と言うのは難しい。しかしながら, 旧式化が他でも評価が入っている意味で用いられていることもあり, 本標準において旧式化を一般的な日本語の意味と捉えてはならず, 用語の定義を明確に記載しているため, 基本的には現行記載は問題ないものとする。

C: ただし, 現在の記載案では“最新のものと”の比較において陳腐化し, 安全性向上の余地が生じていること”と記載されているが, “最新のものと”の表現では, ハードのみがベンチマーク対象となるので適切でなく, たとえば最新の要求, 安全目標または安全確保水準等と記載すべきではないか。

C: また, 最新であることが必ずしも良いとは限らず, 古いものでも要求を満足している場合もある。この点については, 注釈などでも強調して記載することが必要ではないか。

C: “安全性向上の余地が生じること”ではなく, “安全性向上の余地が生じている状態”という表現の方が望ましい。

A: 本日の議論をふまえて, 主査において修正案を作成し, 分科会での確認を得るようにする。

<資料 S3SC44-3-2 コメント No.5>

C: 5.2.3 のタイトルを「要員の資質」から「要員の構成」に変更しているが, 記載内容を鑑みると「要員の構成」から「チームの構成」に変更することが望ましい。また「能力」という記載は「力量」という記載が適切であるとする。

A: コメントを拝承し修正する。ただし文中の技術的能力は「能力」のままとする。

<資料 S3SC44-3-2 コメント No.7>

C: 「次回の PSR+までの期間」を「次回の PSR+プロセスまでの期間」に修正する。標準中で PSR+と PSR+プロセスという言葉は使い分けているためである。

A：コメントを拝承し修正する。

#### (6) PSR+標準改定 標準委員会本報告 (S3SC44-4)

倉本幹事より、資料 S3SC44-4 を用いて PSR+標準改定のシステム安全専門部会書面投票結果への対応報告後に実施していく予定である標準委員会本報告での説明資料案の提示を行った。

本説明資料においては、専門部会審議での論点や対応における議論内容の説明、他標準類との整合性調整の必要性について記載しており、分科会にて資料案をレビューいただき、2週間を目途にコメントを募ることとした。

#### (7) IRIDM 標準改定について (S3SSC44-5)

倉本幹事より、資料 S3SC44-5 を用いて IRIDM 標準改定の趣意書案の説明を行い、審議を実施した。

本趣意書案については、次回分科会において詳細に審議を行っていく予定であるが、分科会にて現状の案をレビューいただき、2週間を目途にコメントを募ることとした。

主な議論は、以下のとおり。

C：趣意書案については11月のシステム安全専門部会において報告を予定する。

改定作業の概要としては、近年の学会標準に沿った体裁更新、参考文献更新、IAEA TechDoc1909 や 10CFR Part53 での国外取組状況取り入れおよび国内事業者の IRIDM 取組状況の取り入れを考えている。

C：IRIDM 標準に係る講習会は、これまで何回か開催しており、講習会において得られた議論内容や IRIDM 標準に関する要望につき、改定時に盛り込むということも必要であると考えられ、その内容は盛り込むべきだと思う。

A：趣意書案に取り込むこととする。

#### (8) 今後の予定, その他 (S3SC44-6)

倉本幹事より、資料 S3SC44-6 を用いて、今後の予定について確認した。

次回分科会については、PSR+標準改定のシステム安全専門部会書面投票結果への対応報告、及び標準委員会本報告後として、10月中旬頃に分科会を開催する（調整は別途行う）。

また、今後、PSR+標準改定状況を標準委員会の山本委員長、関村委員に対し、両先生が炉安審・燃安審の部会長も担当されていることもあり、PSR+標準の使われ方や、課題意識、炉安審の論点に対する検討状況などを合わせて標準委員会前にご説明する方向とした。

以上